

《非公表プログラムの事例》

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

F. その他

①大学院生・研究者等の積極的な受入・派遣等

●事例 13

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

本大学から海外の大学に大学院生のグループを派遣する際に、派遣先大学が受け入れ可能な時期と本大学の学事日程や補講期間が重複し、日程の調整に困難をきたすことがたびたび生じた。特に7月の最終週や3月の最終週など、先方の都合がよい時期に本大学側の授業や学事日程が重複した。

(苦労したこと、困難であったことの詳細な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

本研究科の教員が既に関係を持っている受入大学と、派遣プログラムの内容や時期などについて協議を行ったが、派遣先の国や大学の学期のズレや休暇時期の相違などにより、こちらが派遣を希望する日程とどうしても合わない場合があり、派遣プログラムの計画変更を余儀なくされた場合もある。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

国や大学による学期のズレや休暇日程の相違など、事前に十分に調査し、派遣先を選定するにあたっては本大学の授業期間や学事日程に十分配慮し、無理なく派遣できる派遣先を選ぶ必要があった。結果的に派遣した数は十分であったが、これらの点に配慮していればより円滑に派遣手続きが進行したと考える。